

# 協議会ニュース 120号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2008.9



アメリカハウライセンブリ (豊橋市)  
8年前に岡崎北部でたった1本だけ見つけました。ここでは、グリーンベルトの中で遠目にもわかる程増えています。

イラスト・文：東三河支部 中西普佐子

## 研修報告

蒲池海岸の生き物を見よう	吉田彰	.....P2
佐久島研修会	三田孝	.....P3
あいちの自然観察会		
里山の生き物	滝田久憲	.....P4
たんぼとため池の観察	三田孝	.....P5
カシノナガキクイムシの被害調査	堀田守	.....P6
生物多様性条約 COP10 に向けて	石田晴子	.....P8
海の生き物紹介	中井康夫	.....P9
理事会記録		.....P10
事務局だより		.....P11
事務局・行事案内		.....P12

# 蒲池海岸の生き物を見よう

西三河支部 吉田 彰

2008年5月18日(日) 9:30~12:00

常滑蒲池周辺は、愛知県内では数少ない海浜性の植物の群落が残る海岸です。この蒲池で、研修会が行われるとのことで参加しました。今回の研修会は、親子連れの一般参加者の参加もありました。子供たちがなかなか集まらない西三河支部としては、大いに参考にしたいところです。企画としては、鬼崎蒲池港北側の海岸を中心に、海の中の生き物を採集・観察し、また海に戻してあげるといふものです。

採集が始まると、大人も子供たちも関係なく網を持って海に入り、また、ある人たちは海浜生き物の採集を始めました。ボラの子供たちを見つけ、追いかけて始めると子供に戻った気分になります。ここの砂浜はアサリが採取禁止になっているために、人が入っていないこともあり、サルボウやバカガイなどの砂浜に見られる貝類、ゴカイの仲間やイソギンチャクが採集されました。また、砂浜の両側にあるテトラポットや岩礁には、多くの巻貝の仲間やカニ・エビ等の甲殻類が生息場所としています。採集したのは1時間ほどでしたが、わずか200mほどの砂浜の海岸にこれほど生息しているのかと驚くほど多くの種類の生き物たちが集められました。それぞれの種を確認し、地元の指導員から説明を受けました。中には物知りの子供もいたりして、とても楽しい研修会となりました。

なぜこの場所に多くの生き物が棲息できるのでしょうか。アサリの養殖場として保護されている一面もありますが、砂質から泥質の特性を持った地質、古くからの岩礁が残されていること、そして海浜植物の群落が残ることができるあまり開発されていない環境など多くの要素があつてのことです。人が手を入れることがなければ、わずかな土地にも様々な生物が息づいている、多様性があることを教えてくれる研修会でした。



# 佐久島研修会

西三河支部 三田 孝

日 時 平成20年7月19日(土) 9時20分～15時30分

天 気 快晴

参加者 13名(西三河支部9、他支部3、支部関係者1)

佐久島は三河湾に浮かぶ島の中では最大の有人島であり、唯一、西三河(幡豆郡一色町)に所属する島です。交通手段は一色港から町営の渡船が佐久島西港、東港に連絡をしています。当日は9時30分の船で渡りました。夏休みの初日のためか船内は満員で立ったままの人もいるほどの混み具合でした。西港に寄りながら東港着は10時頃。

本日の講師は岡田速先生と伴幸成先生です。お二人は、かつて10年間ほど佐久島で自然観察会をやられてこられた経験をもっておられます。東港を下船して筒島弁財天に向かう道すがら、岡田先生から暖地性の海岸植物の解説をいただきました。葉柄が葉の中央につくハスノハカズラがおもしろいと思いました。弁財天の後は、磯浜にでて磯の生きものの観察に移りました。男子岩付近で伴先生より磯浜の生き物の垂直分布の話をお聞きしました。最上部の飛沫帯にいるタマキビは水がきらい。カメノテの中身を剥いてみるとエビのよう。大きめの石をひっくり返してみるとオレンジ色のアメフラシが集団見合い? オレンジの縦線と白い縦線のタテジマイソギンチャク2種が隣同士。意外と動きが早いマツバガイ。磯にいるとあっという間に時間が過ぎてしまい、予定していた東浦、逸先方面まで行かずに男子岩付近だけで十分堪能しました。帰り際に海岸の土崖に集団で営巣する蜂を見つけました。おびただしい巣穴の数で一同見とれてしまいました。そのとき種名は分からず、後日の同定では希少種のような感じでした。

東港前の喫茶店で一同全員かき氷を飲みながら反省会(実は涼をとっていただけ)。東港15時00分発の渡船で帰途につきました。



# 里山の生き物

名古屋支部 滝田 久憲

日時 平成20年6月14日(土) 午前9時30~12時 天候 晴

場所 名古屋市名東区猪高町猪高緑地

参加者 一般 27名 指導員 当支部会員 10名 共催 名古屋市環境学習センター

里地里山とは自然と人々が共に暮らす場であり、かつては私たちの身の回りにいくつもありました。また、ここでは、田んぼなどの水辺を中心にした様々な自然環境があるために、多様な生き物の生息場所となっていました。今の50代以上の人々が持つ子供の時代の自然体験の記憶は、多かれ少なかれこうした場所で培われたものです。名古屋市でも東部丘陵地を中心していくつもの里地里山がありましたが、公共工事、宅地化、後継者問題などで現在でもその面積が減り続けています。こうした中、各地で市民グループなどによるさまざまな環境保全活動が行われるようになりましたが、行政の側も後追いする形で、緑被率をあげるために荒れた森などを再生する“オアシスの森事業”を始めました。猪高緑地ではこの事業の田んぼ版として、棚田が再生され、平成13年から市民の手で米づくりが始められました。

観察会当日は、名東生涯学習センター前に名古屋市環境学習センター公募の親子21名、猪高緑地自然観察会の一般参加者6名が集まりました。名古屋支部の堀田さんの説明の後、2つのコースに分かれて最終目標の棚田を目指しました。最初に名古屋市のため池の中で一番透視度の大きな塚ノ杵池を訪れました。このため池は、岸辺を歩くことができ、色々な生き物を間近に観察する事ができます。トンボの仲間やジュンサイなどの水草を観察しました。ただし、現在、池の半分はスイレンに覆われており、いつ在来種が駆逐されても不思議ではない状態でした。雑木林の中では、ニホンアカガエルに出会ったり、カシノナガキクイムシの被害を受けたコナラの大木を観察したりしました。途中、クスノキの大木に挨拶をして、棚田に到着しました。田植えが終わったばかりの田んぼでは、若苗が順調に育っていました。中央部の葦原付近では、オオヨシキリがゲゲチョ、ゲゲチョと鳴いていました。何人かの子供たちが水の中に入り、生き物探しを始めました。田んぼの中には、マドジョウ、タモロコや数年前にすぐ隣にある長久手の田んぼが区画整理でなくなる時に引っ越してきたメダカの子孫などが生息しています。子供は捕まえた生き物に目を輝かせ、大人は少年時代の記憶に思いを馳せていました。

名古屋市でのこうした田んぼ再生の動きは、天白区の荒池緑地に引き継がれ、さらに2010年には千種区平和公園のくらしの森エリアでの里やま再生事業に生かされようとしています。

猪高緑地に田んぼが再生された結果、多くの生き物が戻ってきました。また、多くの人々がそれに関わるようになりました。里地里山が自然再生の場であると同時に人の再生の場であることを今回の観察会で改めて実感しました。



# たんぼとため池の観察

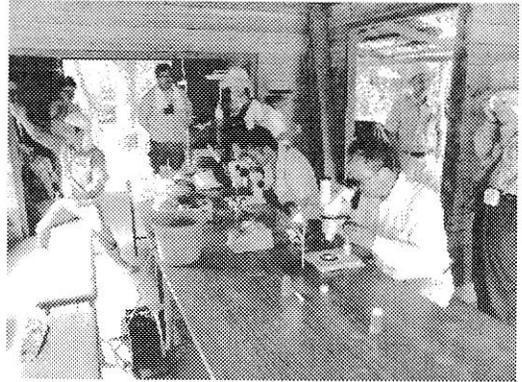
西三河支部 三田 孝

日時 平成20年8月2日(土) 9:30~12:00 天気 晴  
 場所 豊田市自然観察の森  
 参加者 13人(一般参加者2、他支部会員2、支部会員9)

豊田市自然観察の森は豊田市を流れる矢作川の東側に位置し、雑木林や湿地、ため池が残されている丘陵地です。西三河支部としては当地において今年度4回(4月、7月、10月、1月)の定例観察会を企画しました。今回はその第2回目になります。

担当は伴と三田。ため池のプランクトンの観察を主目的にしました。幸い現地に作業小屋があり電源も確保できたので、長机4本に実体顕微鏡2台を持ち込み準備を整えました。観察の森の北端にあるトンボの湿地と上池のプランクトンを採集しましたが、用意したプランクトンネットの目が細かかったせいか水ぬけが悪く効率的に採集ができません。顕微鏡で見てもわずかに細かく小さなもの(鞭毛虫 モナス類)が動くのみでした。もともとプランクトンは春の発生が多く、夏は減少するようですが、あまりにも少なく予想外の結果に終わりました。

後半は目標を切り替えて、その他の生き物の観察にしました。トンボの湿地にはメダカの大群が泳いでいて、ハイイロゲンゴロウやヨシノボリの仲間、コミズムシの仲間も見られました。ザリガニ釣り親子がいましたが、許可を得てザリガニを釣ることができるようでした。水路脇の湿地を踏みつけるとヒメタイコウチがわんざか湧いて出てきました。



参加者は会員が主で一般参加者が2名に留まり、PR不足を痛感します。同程度のPR度でもホタルやキノコの企画は自然に人が集まるところをみると、魅力ある企画であったかどうか反省すべき点があるかも知れません。

# カシノナガキクイムシ 被害調査報告のその後

＝はじめに＝

まず皆さんにお詫びをいたします。まとめのデータが、HDクラッシュの為、データが一瞬にして消えていました。バックアップがされていませんでしたので満足な報告書が作成できないうちに、報告が遅れまして申し訳ありません。今までの経緯を思い出し、次にまとめてみました。

＝調査の目的＝（協議会HPより抜粋）

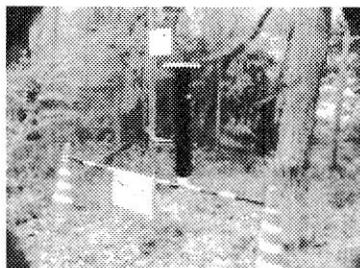
1. 日ごろの活動の場を緑地や森にしている自然観察指導員として、カシノナガキクイムシ（以下カシナガと表記）被害と現状対策の問題を見過ごすことなく、問題点についての情報を共有したり、観察会などで参加者に話題を提供したり、環境保全の立場から調査活動に参加を促すよう啓発すること。

2. 会員が日頃フィールドとしている場所や何かの用事で訪れた緑地などでこうした被害を観察した場合に、それを記録し、情報共有に活かすことを調査の目的としています。

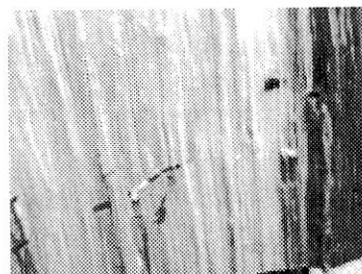
＝被害調査における経緯＝

平成16年に我フィールド名東区猪高緑地でカシナガによるナラ枯れが確認されました。被害について、名東保健所を通じて名古屋市・愛知県に報告をしていましたが、名古屋市内の緑地でもその被害が少しずつ拡大し、平成18年には海上の森などのような名古屋市周辺の緑地にもその影響が見られるようになりました。名古屋支部各観察会において調査プロジェクトチームとしての提案を行い、カシナガ被害の調査を行い、名古屋市内で開催された環境イベントでその結果を発表したり、新聞に取り上げてもらったりしました。また、協議会の中でも、この問題を提起し、「協議会ニュース」を通じて、会員にカシナガ被害調査の参加を呼びかけました。また、平成19年3月の総会では、森林総研関西支所の高畑研究員にカシナガの生態などを講演して頂き、情報の共有化を図って参りました。そんな経過の中名古屋支部では、平成19年12月に調査結果を持ち寄り愛知県森林・林業セ

名古屋支部 堀田 守



▲トラップ調査の様子



▲幼虫と穿孔の様子

ンター主任研究員 石田朗氏に講師をお願いして、カシナガ被害調査研修&報告会を開催いたしました。データ提出にご協力いただきまして有難うございました。調査観察は、その後も継続して行っており、場所・樹種・胸高直径データをまとめとしていましたが、容易に被害木を探すことができることから、支部定例観察会では、参加者と一緒に被害と原因について、意識をもって頂く為、啓発活動を続けています。

＝被害の状況と対策について＝

いろいろな方法で被害を食い止めようと試していますが、これといった対策はないのが現状です。平成20年7月現在に於いては、昨年アタックを受け穿孔されて樹液が出て、本年芽吹きした木においても枯れが発生しています。

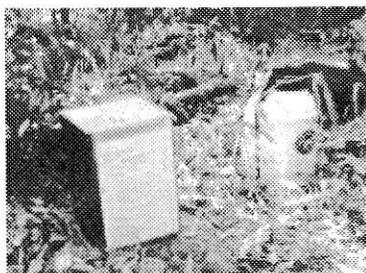
＝その他＝

参考文献

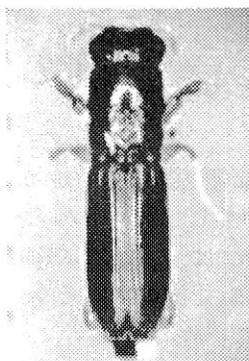
- 1.被害の場所データ
- 2.猪高緑地におけるカシナガ対策報告を参照



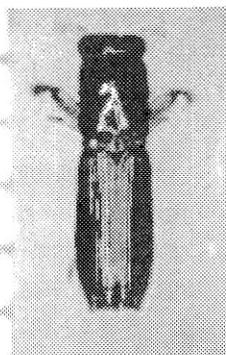
▲対策防御作業の様子



▲カシナガブロック薬品



▲カシナガ（♀）



▲カシナガ（♂）

採取：猪高（写真提供 愛知県林業試験場）

## 猪高緑地カシナガキクイムシ被害の現状と対策

### 1. 猪高緑地の概略

所在地 名古屋市名東区猪高町地内  
面積（区域） 全体区域面積 約66.2ha  
猪高緑地では、名東自然倶楽部という市民団体が組織され、名古屋市、名古屋市みどりの協会とのパートナーシップにより、棚田・森・湿地の復元を目指して活動を実施。

### 2. 猪高緑地のカシナガ被害状況・対策

平成17年 9月 名東自然倶楽部からカシナガの被害報告  
平成18年 春 被害拡大  
平成18年 7月 被害木の立木燻蒸処理、伐倒燻蒸処理<sup>※1</sup>  
平成18年 冬 枯死木伐倒調査（散策路沿い被害木の伐倒燻蒸処理<sup>※1</sup>）  
平成19年 4月 カシナガ試験施工<sup>※2</sup>  
平成19年 冬 枯死木伐倒調査（散策路沿い被害木の伐倒燻蒸処理<sup>※1</sup>）  
平成20年 4月 ウッドガード試験施工<sup>※2</sup>

※1. カシナガに対して登録されている農薬は、カーバム剤と呼ばれる NCS 剤、ヤシマ NCS 剤の2種。ただし伐倒木に対する燻蒸処理は、現在認められていないため、試験目的として伐倒木の燻蒸処理を実施

※2. 殺虫、農薬成分を含まない樹幹塗布剤による試験施工

### 3. 被害木数、伐倒数

平成17年	被害木30本	伐倒 3本
平成18年	被害木130本以上	伐倒22本
平成19年	被害木150本以上	伐倒63本

（伐倒燻蒸処理後現地再集積）  
被害木：コナラ9割、他シラカシ、アベマキ

### 4. その他

- ・調査受け入れ 市民団体、大学、森林総合研究所関西支所等
- 調査内容：幹周測定、サンプルの採取
- ・防除方針 園路沿いの危険な枯死木のみ伐倒燻蒸処理

# 生物多様性条約第10回締約国会議 (COP10)開催に向けて

名古屋支部 石田 晴子

生物多様性条約第10回締約国会議（通称COP10）の開催地が愛知・名古屋に決定して約3ヶ月が経過しました。愛知県・名古屋市では「これまでに経験のない規模の国際会議の開催」と位置づけ、その成功に向けて着々と準備を進めています。

行政の取組の他、県民に期待する取組も位置づけられており、その中には「自然観察指導員」への期待が込められていると思います。今回は、その概要をご紹介します。

## OCOP10の概要

時期	2010年10月11日～29日 ・カルタヘナ議定書締約国会合 11～15日 ・生物多様性条約締約国会議 18～29日
場所	主会場：名古屋国際会議場 関連事業会場：愛・地球博公園、東山動植物園など
規模	参加者（COP9登録参加者実績） 約4,600名

### ☆COP10（2010年）における主要な議題（想定）

- ・2010年目標（締約国は現在の生物多様性の損失速度を2010年までに顕著に減少させる）の検証およびその後の枠組み
- ・遺伝資源へのアクセスと利益配分（ABS：Access and Benefit Sharing）について一定の国際的枠組み
- ・カルタヘナ議定書については、遺伝子組み換え生物の国境を越える移動から生じる損害についての責任と救済に関する事項

### ☆その他の議題（COP9（ドイツ・ボン）における主な議題）

農業の生物多様性／森林の生物多様性／海洋及び沿岸の生物多様性／生物多様性と気候変動／保護地域／条約戦略計画（2010年目標等）／遺伝資源へのアクセスと利益配分（ABS）等

## OCOP10と愛知・名古屋

愛知・名古屋はCOP10開催にあたり、開催地として次の役割を果たします。

### 会議支援

- ・宿泊施設確保、ボランティア配置
- ・警備協力、災害時対策、救護体制等
- ・環境への配慮（公共交通機関利用促進、グリーン電力の活用等）
- ・ホスピタリティ（地元食材の提供、自然・歴史・文化を体感できるエクササイズ等）

### 地域からの行動 ～ローカルアクション～

- ・自然と共生する地域づくり
- ・生物資源を持続可能なかたちで利用するくらし・産業づくり
- ・他の国や地域との広域的な関係づくり
- ・取組の推進と中長期ビジョン：「あいち自然環境保全戦略（仮称）」、「生物多様なごや戦略（仮称）」の策定

## ○私たち（県民）にできること

虫や魚などの動物も、木や花などの植物も、みんな一緒に支えあい、つながりあって生きている、この美しい星、地球。この地球の豊かな生物多様性の恵みのもと、現在及び将来の世代が豊かに暮らすために、私たちにできる身近なことから考え、行動することが大切です。

### 【私たちにできる身近なことの例】

☆普段の生活の中で、なにげなく目にする動植物を、もう少し関心を持って見てみる。

☆市町村や市民グループなどが開催する自然観察会などに参加してみる。

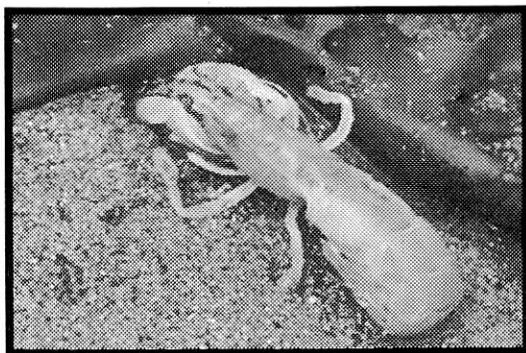
☆多くの食料や木材、生きた動植物を輸入していることを認識し、生物多様性の保全や生物資源の持続可能な利用に配慮した商品（MSC漁業認証商品、FSC森林認証商品）を選択的に購入する。

## 知多の海岸生物5

## ニホンスナモグリ・寄生されたアナジャコ

知多支部 中井 康夫

今日は知多市の新舞子・日長に広がる日長川河口の干潟を紹介する。ここは潮干狩りのシーズンにはたいへんな賑わいをみせる。ここではアサリがたくさん育って、人が採っても次々湧いてくる。しかし、決してきれいな海とは言えない。でも、アサリが次々再生産されるのだから栄養には富んでいるはずである。ところが、砂や泥のところや、その上に小石が乗っているところも少し掘ると、黒い砂泥の層が見えてくる。これは、酸素がない無酸素、あるいはほとんどない貧酸素を意味していて、生物が生きていけない原因になっている。そのような環境で、多種の生き物が実際に生きているというのは、いったい、どういうわけなのだろう。きっとそのような砂泥底に棲む生き物たちは悪環境に対する生活方法や体の仕組みをしっかりと備えて耐性を持っているにちがいない。



ニホンスナモグリ

さて、初めに取り上げたいのは、ニホンスナモグリである。個体数の多さでは新舞子海岸(日長の海岸は、新舞子側と比べると底質に多少違いがあり、生き物の分布状態も異なる。)は特別である。体の中のオレンジ色や赤っぽいピンク色が透けて見える。体は柔らかい。まるで、「幽霊エビ」といったところ。ニホンスナモグリは巣穴に潜ったまま、砂泥中の有機物を集める(堆積物食)ために複雑な巣穴を作る。これとよく似たアナジャコはY字型の巣穴を掘り、腹部にある付属肢で水流を起こし、餌を濾しとって食べて(懸濁物食)いる。ここではアナジャコも時々見つかるが、体長が5~6センチの小さな個体のみで、ニホンスナモグリのほうが優勢である。



マゴコロガイに寄生されたアナジャコ

次に、この間、日長側の干潟で珍しい「寄生されたアナジャコ」を見つけたので報告する。写真のようにマゴコロガイというホトトギス科の2枚貝が足糸(そくし)でアナジャコの胸部にしっかり付着している。これを外すには人が引っ張ったくらいではだめである。かといって、引っ張りすぎると、アナジャコの方がちぎれてしまいそうである。ところが、アナジャコが脱皮するときになると、マゴコロガイは自分で殻から足糸をはずしアナジャコの背面に回りこんで前方に移動し、殻が脱

ぎ捨てられると同時に新しい殻に乗り移るのだそうだ。全く驚きである。(干潟には他にもいろいろな生き物がいる。)

## 平成 20 年度第 3 回理事会

日時：平成 20 年 8 月 24 日 14:00～16:30

場所：春日井市少年自然の家 会議室

出席者：松尾、降幡、浅井、大谷、近藤、齋竹、永田、樋口、山田、吉川（欠席理事 8名）

議長：松尾 記録：齋竹

議事

### 1 協議会・理事会の役割と会費について

(1) 会費の値下げ（現行の 3,000 円を 2,000 円）について、会計から提出された収支試算をもとに検討した。現在の会員数を前提にすると、試算では会費収入が 355,000 円の減収となり、支出は観察会費で 94,000 円、調査費で 60,000 円、機関誌作成で 160,000 円、事務費で 175,000 円の削減を図ることになる。

○観察会費の主なものは保険料と PR パネルの作成費などである。保険料については、これまでの 10 円補助を廃止しても、所定の人数に達しなかった場合の負担があり、協議会としての一部負担は残る。ただし、指導員の加入している保険より手厚い保険金（補償）の額について、現行でいいのかどうか検討する必要がある。補償を減らせば保険料も 1 人 1 日 50 円より低くでき、経費節減になる。それに伴い、できれば現在個別にかけている東三河・西三河についてもいっしょにすることが望まれる。

○調査費は PR 用のリーフレットなどを見直し、支部で周知を図るなどして参加者を集めることで節減を図ることが可能である。

○機関誌は、今年度から印刷の委託先を変更し、大幅な経費削減を図っている。

○機関誌の回数を減らして季刊でよいのではないか。従来の 3,000 円会費では年 6 回が妥当であったかもしれないが、値下げして 2,000 円にすれば回数も減らしてよいのではないか。

○機関誌の発行回数を減らすと、印刷費のみならず送付料もその分不要となり、さらに 100,000 円程削減が可能となる。

○季刊になると、行事案内などを機関誌に掲載するためには行事内容を従来以上に早く決定することが必要になる。

○事務費については、理事会の開催回数を減らすなどの対応が必要である。

○理事会の回数を減らしても、業務執行のための部会等が必要ならその分の旅費は必要となる。

○総会時に開く講演会などは協議会の行事として引き続き開催して欲しい。

○経費の削減を図るほか、収入を増やすことを考える必要もある。

○支部の取り組みのように受託事業を増やし、その一部を協議会の経費に充てることも考えられる。

○企業の広告を掲載するなどスポンサーにすることは、相手企業の選定が難しいし、協議会活動の制約が生じることも起こりうる。自然観察に理解のある企業を賛助会員として受け入れるような制度を考えることが必要かもしれない。

○次期繰越金も減らすことになるが、当年度会費が納入される前に保険料をまとめて払い込むための資金となっていること、さらに 30 周年事業などに備えた財源としての意味もあり、どれだけ確保するのか検討が必要である。

○事務経費の内容について協議した。

○値下げの時期は、さらに詳細な検討を加える。

### (2) 今後の行事等について

○2010 年に協議会発足 30 周年になる。生物多様性条約の COP10 が名古屋で開催される年でもあり、何か事業を構えたほうがよい。

○事業としては次のようなものが考えられる。

- ・有名な講師を呼んで行う講演会
- ・協議会活動をまとめた記念誌の発行
- ・観察会ガイドブック、観察マップ、この地域の生き物図鑑（「愛知の野草」のようなイメージのもの）など会員が一丸となって取り組み販売できるような冊子の作成

○知多支部で行っているような会員の交流のための企画を考えることが必要である。

○交流会を含めて総会を 1 泊で行うことも考えられるが、交通の便がよく集まりやすい場所だと、観察会の適地とは遠く、参加したいという意欲が湧かないのではないかと。

○あいちの自然観察会に加え、一斉観察会を取組んではどうか。

### (2) その他

○次の総会（2009 年 3 月 20 日）の会場及び講演会の講師について決めていきたいので、次回までに案を考えておいて欲しい。

○次回の理事会は 10 月 19 日（日）に東三河地区で開催する。

## ■あいち自然ネット（あいち自然環境団体・施設連絡協議会）への加入

昨年度、愛知県自然観察指導員連絡協議会（以下 協議会）として表題にあるあいち自然ネット（あいち自然環境団体・施設連絡協議会 以下 あいち自然ネット）に参加しました。愛知自然ネットは、「あいち海上の森センター」（愛知県農林水産部所管）が環境関連の活動をしている県内の団体・施設に対し、情報交換や連携活動など幅広い交流により環境保護運動の活発化をめざそうと意見交換会を呼び掛けたことに始まっています。

愛知県内にある自然環境団体と自然にかかわる施設をつなぐために設立された組織ということです。「環境への県民意識を高め、環境知識の普及・啓蒙や人材の育成、更には持続可能な社会をめざし、全県をカバーする自然環境組織を作りたい」という趣旨に賛同した約50の団体・施設が加入して官・学・民の連携・協同活動を目指しています。

協議会からも支部組織である知多自然観察会、尾張自然観察会、東三河自然観察会が独自に参加しています。

あいち自然ネットの会長は宮永正義・海上の森野鳥の会代表、事務局長は浦井巧・あいち海上の森センター所長で、事務局はあいち海上の森センターです。

07年3月4日、36団体・施設から41名が出席して第1回会合が開かれ（本会からも降幡副会長・大谷理事が参加）、第2回会議で設立準備委員会、5回の準備会議を経て設立に至ったそうです。今のところ、総会以外に参加団体にはメーリングリストにより、情報の交換・共有ができるようにしていくそうです。年会費は3000円（設立初年度は1000円）。メーリングリストには各団体3名までということなので、松尾会長、降幡副会長、近藤理事（担当）が登録されています。

本年度は海上の森センターを主会場にして参加団体が各種教室や講演会などを開く支援をする予定です。来年度以降は他の参加施設を活用した活動などへの支援も考えていきたいという話もありました。COP10にも関連していると思われますが、海上の森センターにからんで県からの補助金もあるようです。海上関連団体のためだけの活動にならないようにして、広く各団体の活動が連携できる機会にしていけるといいと思っています。（吉川洋行）

## ■2008年度 協議会調査の実施について協力をお願い

今年度の協議会の事業として特定外来種の「スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）」の愛知県内での分布状況を調べています。自然に関わる者として外来種による生態系の単純化は見過ごせません。最近の田んぼ、畑など農地の生態系は特に貧弱なものとなっており、私たちが気づかないうちに外来生物によって占領された状態になっています。

協議会のこの調査に皆さんのご協力をお願いします。

今年度の調査は、分布していない地域も確認したいと考えていますので、生息していない情報につきましてもご連絡ください。

調査方法等の詳細は当協議会のHPにもあります。HP(<http://www.naichi.net/>)

調査結果は以下の項目を記入して下さい。

調査月日：年月日

調査場所：愛知県〇〇市△△町□□

調査場所の環境：湖沼、ため池、水田、その他

確認したもの：卵塊、成員

調査員の氏名、連絡先：

調査結果の書式はHPにExcel形式のファイルで掲載しています。

報告方法：Eメール又は郵送でお送りください。

調査担当：吉田 彰

郵送先：〒446-0071

安城市今池町2-1-1 E101

E mail : [jumbotanishi2008aichi@yahoo.co.jp](mailto:jumbotanishi2008aichi@yahoo.co.jp)

### ■会員の異動の連絡

7月末までに協議会の会費が納入されない方は、その後の協議会ニュースの送付が止まります。各支部の会計又は事務局担当の方は、支部会員の協議会費の今年度の納入状況を名簿管理担当の吉川理事までご連絡ください。また、その後に会費が納入された場合もその旨ご連絡ください。さらに、協議会ニュースは郵送ではありませんので、転送ができません。転居、住居表示の変更、結婚などによる姓の変更などがあつた場合も、できるだけ速やかにご連絡ください。

### ■協議会のHP等

協議会の行事などの情報はHP (<http://naichi.net/>) を見ると最新の情報が見られます。また、協議会の公式のものではありませんが、協議会会員で情報交換のためのメーリングリストもあり、現在、65人ほどが参加しています。参加を希望される方は、[BZA03620@nifty.ne.jp](mailto:BZA03620@nifty.ne.jp) あて自然観察ML参加希望というメールをお送りください。

## SAU 行事予定 SAU

### ■研修会

#### ○大原調整池周辺自然観察（新城市）

10/5(日)9:30~12:00 大原調整池堰堤脇駐車場集合

連絡先：NPO法人東三河自然観察会事務局 間瀬美子（0532-45-1335）

#### ○蛇峠（長野県阿智村）

10/26(日)10:00~15:00 治部坂高原駐車場（目標：会旗）

連絡先：村上和彦（090-2247-2219）

### ☆編集部より

協議会ニュースは会員みなさんに協議会・支部の行事、会員の状況などをお知らせする媒体です。会員みなさんからの積極的な投稿を期待しています。

#### 編集部スタッフ

岡田 雅子 近藤 記巳子

齋竹 善行 酒井 勇治

永田 孝 山口 健

#### 発送スタッフ

岩沙 雅代 横井 邦子

#### 協議会ニュース編集部

〒482-0007

岩倉市大山寺元町 12-3

齋竹 善行

メ-ル：BZA03620.nifty.ne.jp

### ■愛知県自然観察指導員連絡協議会 事務局（当面）

〒486-0904 春日井市宮町3-6-2

松尾 初

Tel 0568-32-5069

### ■Web Page：<http://naichi.net/>

### ■郵便振替口座：00820-9-6546（名義：愛知県自然観察指導員連絡協議会）